

一般会計予算特別委員会 会派代表質疑

全議員が一般会計予算のすべてについて審査ができることでチェック機能が強化されることや情報を共有できることなどから、これまで各常任委員会に分割付託していた一般会計予算の審査について、議長を除く 24 名の議員で構成する一般会計予算特別委員会を設置して審査しました。審査において、会派別にその所属委員数により時間を配分した会派代表質疑を行いましたので、その内容を掲載します。

※紙面は各会派の時間配分(緑風会 65 分、知音会 45 分、大政クラブ 45 分、福祉政進会 25 分、社民 25 分、公明党 25 分、無会派 15 分)により割り当てています。

緑風会

- (1) ①第三次財政健全化計画と平成22年度予算との整合性はどうか。
②積極的な歳入計画はどのように考えているのか。
③徹底的な歳出削減策はどのようなことを模索しているのか。
④重点施策に基づく選択と集中に関する今年度の予算配分はどうか。
- (2) ①総合運動公園の整備の現状と今後の展望について
②1期工事の総事業費はどの程度で、平成22年度に予定している工事内容はどういったものか。また、1期工事における用地は何%確保されるのか。
③計画によると1期工事は平成26年に完了するとなっているが、現在の進捗状況と今後の見通しはどうなっているのか。
④市長は1期工事は完成させるが、2期、3期工事はしないと言ったが国の補助事業である本事業をやめることができるのか。

財政部長

(1) ①歳入については不況の影響で市税の収入が財政健全化計画と比べて8億円程度減少したが、臨時財政対策債と地方交付税でカバーでき、ほぼ計画並みであった。歳出については、扶助費が約2億7千万伸びるなど予想を上回った。その結果、全体として財源不足が生じ、基金の取り崩しが計画と比べ大幅に伸びているという状況である。

財政部長

(1) ②歳入確保対策基本方針に沿って遊休地の公売や収納率の向上を図ることに力を注ぐようにしている。

財政部長

(1) ③扶助費や義務的経費の増加を抑制するのは非常に難しい状況である。その他の経費については、各部への枠配分を行い一定の削減を図っている。

財政部長

(1) ④重点施策枠5,000万円を設定し、重点7項目や新規事業に振り分けている。

都市整備部長

(2) ①1期工事の総事業費は39億6,700万円である。平成22年度は、郡川と杭出津

知音会

松原線に挟まれた北側の約4・5haを粗造成する。また、用地については、現在、1期分9・6haのうち、60%弱にあたる5・7haが買収済みである。平成22年度は4,400㎡を買収する予定である。

都市整備部長

(2) ②平成26年度までの事業認可を取得しているが、今の事業費ベースでいくと、それまでに完成させることは困難である。平成33年までかかるのではないかと考えている。

市長

(2) ③確かにやめる方向でと発言したが、事業認可を受けている以上、現実的にやめるのは非常に困難である。しかし、1期工事を完成させるだけでも、平成33年までかかるという見通しの中、2期、3期工事については、国や県に相談しなければならぬが、現段階では凍結という方向を示さざるを得ない状況である。

(その他の質問事項)

- ・生活保護対策について
- ・市民病院の経営について
- ・環境行政について
- ・高良谷牧場の経営について

整備支援機構及び文化庁と調整をしている。

企画部理事

(2) 市が負担する区間の平成22年度の事業予算は9億円で、その負担内訳は国が3分の2、県が3分の1であるが、県負担の10%、3,000万円を大村市が負担する。平成22年度から整備されるものについては、地域住民や地権者の方に対して、説明会が予定されているが、その実施時期については現段階では不明である。1日でも早く正確な情報収集を行い、関係者の皆様に説明できるように努めたい。

市長

(3) 独占的になっていることについては問題がある。市民プールの売店における事業者参入については、公募するよう努力したい。

